

幼児教育研修（人権1・2回）

受講者合計数 195名

日時 6月24日（金）・7月1日（金） 14:30～16:30

場所 竹の塚地域学習センター

講師 慶応義塾大学 総合政策学部 教授 小笠原 和美 氏

【内 容】 ～乳幼児期からの人権を考える「生命（いのち）の安全教育」～

現役の警察官でもある講師から、性被害の現状や事例を伺い、子どもたちを今後、加害者・被害者・傍観者にしないため、幼児期からのプライベートゾーンの認知の重要性、NO! GO! TELL! などの具体的な予防教育と、子どものSOSの見分け方や受け止め方、介入の方法などを学びます。



【受講者の感想】

* 研修で学んだことを教育・保育にどう活かしていきますか

- ・遊びに集中できない、口数が少ない等子どもの異変に気付けるようにしていく。子どもからのSOSがあった時、「まさか～」と自分の常識にとらわれず、子どもを否定することなく、受け入れること、SOSを受け取れるように普段から信頼関係を築けるようにしていく。
- ・女の子だから、男の子だからという区別をせず、平等に被害にあわない予防教育をし、CAPや他の取り組みを知っていく事で子どもに分かりやすく伝えることができると感じた。
- ・「見せない」に重点を置きがちだったが、「見る人触る人が悪い」「守らなくていい約束がある」などもきちんと伝え「イヤだ！」が言えるよう方法を知らせ、言いやすい環境を作っていく。
- ・実際にあったケースを詳細に伺ったことで、「生命（いのち）の安全教育」がいかに大切で早急に取り組むべきものと実感することができた。
- ・とても具体的でかつ現実を突きつけられる内容だった。保育園の職員がこの様な知識をもち、学ぶことが次に繋がっていくのだとすごく感じた。「あなたが動かなければ何も変わらない」私も1つ動き出そうと思う。
- ・性暴力・性被害の実態について、自分は無知だったと感じた。こうした事件に遭った子どもたちが、大人になっても心に傷を抱えたまま生きていくのは、とても辛いことだと思う。事件を未然に防ぐため、心の傷を深めないため、大切なことを分りやすく伝えてくださった研修だった。